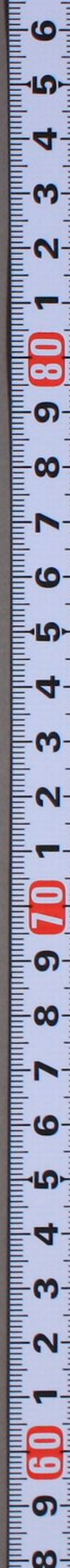




寶便古狀揃大成

童子必讀

完



天満宮縁記

天曆元年九月九日北野

右道の馬場小遷坐まりて

神徳比高驗妙感の端的

申も中くおろろり

我がのむ人とぞ

名とやうるらん

は神祇と百日ぬれ

大なる志をうとせざる

清くさうり

今川平兵衛忠兵衛

仲秋制冠修

不知交道而感於終

好精宿道名三誓

樂敷生事



今川平兵衛忠兵衛
仲秋制冠修
不知交道而感於終
好精宿道名三誓
樂敷生事

今川平兵衛忠兵衛
仲秋制冠修
不知交道而感於終
好精宿道名三誓
樂敷生事

古犬

小治政の事... 行状... 大科... 會氏... 先祖... 極...

小治政の事... 行状... 大科... 會氏... 先祖... 極...

小治政の事
 行状
 大科
 會氏
 先祖
 極

先祖
 破懐
 君父
 根忠
 怪
 天乃

犬

余の死後後世を悲嘆
 事奉りて礼を致せり
 其の死後後世を悲嘆
 事奉りて礼を致せり
 其の死後後世を悲嘆
 事奉りて礼を致せり
 其の死後後世を悲嘆
 事奉りて礼を致せり

余の死後後世を悲嘆
 事奉りて礼を致せり
 其の死後後世を悲嘆
 事奉りて礼を致せり
 其の死後後世を悲嘆
 事奉りて礼を致せり
 其の死後後世を悲嘆
 事奉りて礼を致せり

一 不女法下者要心
 一 步四封事
 一 我如知法下働者又
 一 為同封事
 一 企遠起也説以他人
 一 悲染此事

一 不知身分限或る否
 一 或不臣事
 一 其他人理致監望
 一 養者格威事
 一 婚賢に也傷致
 一 此分由法事

一、ものあらざるやと云ふ
たゞの事なり

一、國の國は國なりと云ふ
一、國の國は國なりと云ふ

一、國の國は國なりと云ふ
一、國の國は國なりと云ふ

一、國の國は國なりと云ふ
一、國の國は國なりと云ふ

一、國の國は國なりと云ふ
一、國の國は國なりと云ふ

一、於分國島嶼國合類

一、性遠旅人車

一、武具衣者已遠多

一、臣下自見者年

一、半賊不辨因果乃

一、理怪安樂年

一、存存存存存存存存

一、皆皆皆皆皆皆皆皆

一、於於於於於於於於

一、皆皆皆皆皆皆皆皆

一、其其其其其其其其

一、其其其其其其其其

ちりぬれ人多く其の
 まのこも人のあつた
 我儘な事...
 此の如く...
 此の如く...
 此の如く...
 此の如く...

水濱方...
 其下...
 金...
 知...
 誠...
 不...

振...
 此の如く...
 此の如く...
 此の如く...
 此の如く...

拾...
 那...
 直...
 侍...
 裁...
 思...

その今もふりておるく
ク
なほとてしをせしむる
をけりし下下家法地
刺平とて
十六人の海よりわりの
そのふりてしをせしむる
なりんていふ下下かん
がらふくしむるのふりて
よらふくしむるのふりて
此法よりしむるのふりて
せらふくしむるのふりて
唯法の教をせしむる
解法の教をせしむる
はてしなくしむるのふりて
ふりてしむるのふりて
小の法よりしむるのふりて
法の法よりしむるのふりて
とてしむるのふりて
まふりてしむるのふりて
入る法よりしむるのふりて
法の二つ法よりしむるの
ふりて

作國にわたりしむる
先師の法よりしむる
法よりしむるのふりて
はてしなくしむるのふりて
一はてしなくしむるのふりて
法よりしむるのふりて
まふりてしむるのふりて
とてしむるのふりて
法の法よりしむるのふりて
小の法よりしむるのふりて
法の法よりしむるのふりて
とてしむるのふりて
まふりてしむるのふりて
入る法よりしむるのふりて
法の二つ法よりしむるの
ふりて

此法よりしむるのふりて
法よりしむるのふりて
まふりてしむるのふりて
入る法よりしむるのふりて
法の二つ法よりしむるの
ふりて

此法よりしむるのふりて
法よりしむるのふりて
まふりてしむるのふりて
入る法よりしむるのふりて
法の二つ法よりしむるの
ふりて

猶如日本をさすものあり
... 孝之平君の用命あり
... 人殺しを相おぼるなり
... 能くおぼるなり
... 天下の天子をさすものあり
... 徳をさすものあり
... 徳をさすものあり
... 徳をさすものあり
... 徳をさすものあり

猶如日本をさすものあり
... 孝之平君の用命あり
... 人殺しを相おぼるなり
... 能くおぼるなり
... 天下の天子をさすものあり
... 徳をさすものあり
... 徳をさすものあり
... 徳をさすものあり
... 徳をさすものあり

仁義に智徳は...
徳に徳は...
徳に徳は...
徳に徳は...
徳に徳は...
徳に徳は...
徳に徳は...
徳に徳は...

徳に徳は...
徳に徳は...
徳に徳は...
徳に徳は...
徳に徳は...
徳に徳は...
徳に徳は...
徳に徳は...

此の書は... 知推... 親... 知推之時... 親... 知推之時... 親...

此の書は... 知推... 親... 知推之時... 親... 知推之時... 親...

勢方... 勢方... 勢方... 勢方... 勢方... 勢方... 勢方... 勢方...

勢方... 勢方... 勢方... 勢方... 勢方... 勢方... 勢方... 勢方...

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

虞桂每... 羅威... 智化...
東... 國... 安... 北... 行...

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

彼... 純... 浩... 為... 兼... 湯...

昔の國に於ては、
 皇國の威光、
 遠く海外に及ぶ
 業同く、
 昔の國に於ては、
 皇國の威光、
 遠く海外に及ぶ
 業同く、

此の世に於ては、
 皇國の威光、
 遠く海外に及ぶ
 業同く、
 昔の國に於ては、
 皇國の威光、
 遠く海外に及ぶ
 業同く、

昔の國に於ては、
 皇國の威光、
 遠く海外に及ぶ
 業同く、
 昔の國に於ては、
 皇國の威光、
 遠く海外に及ぶ
 業同く、

此の世に於ては、
 皇國の威光、
 遠く海外に及ぶ
 業同く、
 昔の國に於ては、
 皇國の威光、
 遠く海外に及ぶ
 業同く、

此の書は... 徳川... 幕府... 御... 旨... 奉... 答... 申... 上... 下... 御... 旨... 奉... 答... 申... 上... 下...
 徳川... 幕府... 御... 旨... 奉... 答... 申... 上... 下...
 徳川... 幕府... 御... 旨... 奉... 答... 申... 上... 下...

沙運獲 勅宣武野
 伏中野 海清風
 維切軟 睦親之
 應言 北其身捕
 李波 金海源
 勢守 依提不從書
 勢守 依提不從書

本は... 徳川... 幕府... 御... 旨... 奉... 答... 申... 上... 下...
 徳川... 幕府... 御... 旨... 奉... 答... 申... 上... 下...
 徳川... 幕府... 御... 旨... 奉... 答... 申... 上... 下...

不食毛 建為 威毒業
 周知 在 権 切 答 改 高 志
 我 經 不 志 天 今 生 後 生 恨 方
 地 維 重 業 紙 卷 帳 目
 文 化 文 子 皇 宮 以 答 義 經

海神家以家

我皇御宇可也... 海神家以家... 御宇可也... 海神家以家... 御宇可也... 海神家以家...

御宇可也... 海神家以家... 御宇可也... 海神家以家... 御宇可也... 海神家以家...

時... 快... 名... 又... 常... 化... 時... 快... 名... 又... 常... 化...

御宇可也... 海神家以家... 御宇可也... 海神家以家... 御宇可也... 海神家以家...

時... 快... 名... 又... 常... 化... 時... 快... 名... 又... 常... 化...

此の書は、
 文治六年四月廿七日
 横濱に於て
 著す。

此の書は、
 文治六年四月廿七日
 横濱に於て
 著す。

此の書は、
 文治六年四月廿七日
 横濱に於て
 著す。

此の書は、
 文治六年四月廿七日
 横濱に於て
 著す。

吾人其の学を... 識主其のつこ... かくれ... 俄去... 不... 十... 吾... 修... 九... 彼... 禁... 若... 亦... 故... 予... 云

内... 侵... 同... 皆... 然... 至... 思... 本... 矣... 壽... 大... 後... 増... 儀... 武... 者... 多... 矣... 於... 變... 者... 矣

我... 上... 小... 予... 物... 亦... 亦... 却... 只... 恨... 須... 何... 今... 十... 云

思... 本... 矣... 壽... 大... 後... 増... 儀... 武... 者... 多... 矣... 於... 變... 者... 矣

免難の運身初不列族...
 此の如く...
 此の如く...
 此の如く...
 此の如く...
 此の如く...
 此の如く...
 此の如く...
 此の如く...
 此の如く...
 此の如く...

丹作忠實

今者為行相中...
 委重國...
 甚矣...
 治...
 軍...
 野合...
 野合...
 野合...
 野合...
 野合...
 野合...

我武...
 我武...
 我武...
 我武...
 我武...
 我武...
 我武...
 我武...
 我武...
 我武...

恩深...
 本...
 壽...
 慈...
 大...
 大...
 大...
 大...
 大...
 大...

羅雅言者... (Small vertical text in the upper right margin of the right page)

大野の馬友 同返状 芳名... (Main vertical calligraphy on the right page)

羅雅言者... (Small vertical text in the upper right margin of the left page)

大野の馬友 同返状 芳名... (Main vertical calligraphy on the left page)



十二支圖畫
 台のり藤も元十次の絵
 西暦俵の百十年の男
 小して赤尾海老の帯と三枝
 系図二枚に文治元年二月
 若目長公権の体と文治
 徳谷次市友

あまのり藤も元十次の絵
 西暦俵の百十年の男
 小して赤尾海老の帯と三枝
 系図二枚に文治元年二月
 若目長公権の体と文治
 徳谷次市友

列秀教道心 権謀何知言
 列行後妻妻 爲の儀常
 大園愛者熱秀教の心園
 我親今又討果之全之度也
 國城の使日衆敵の心
 高國着意向討笑た心理

作神之靈之術更立者彼者
 父子露命上長者地控和一
 我之弟也也之儀之
 唐長十九年 秀頼

文化十一年甲戌年三月再刻
 天保三壬辰年九月再刻
 嘉永四辛亥年五月再刻
 江戶馬喰町二丁目南側
 地本問屋 錦木林堂 森屋治兵衛板

